

### 3.職業選択

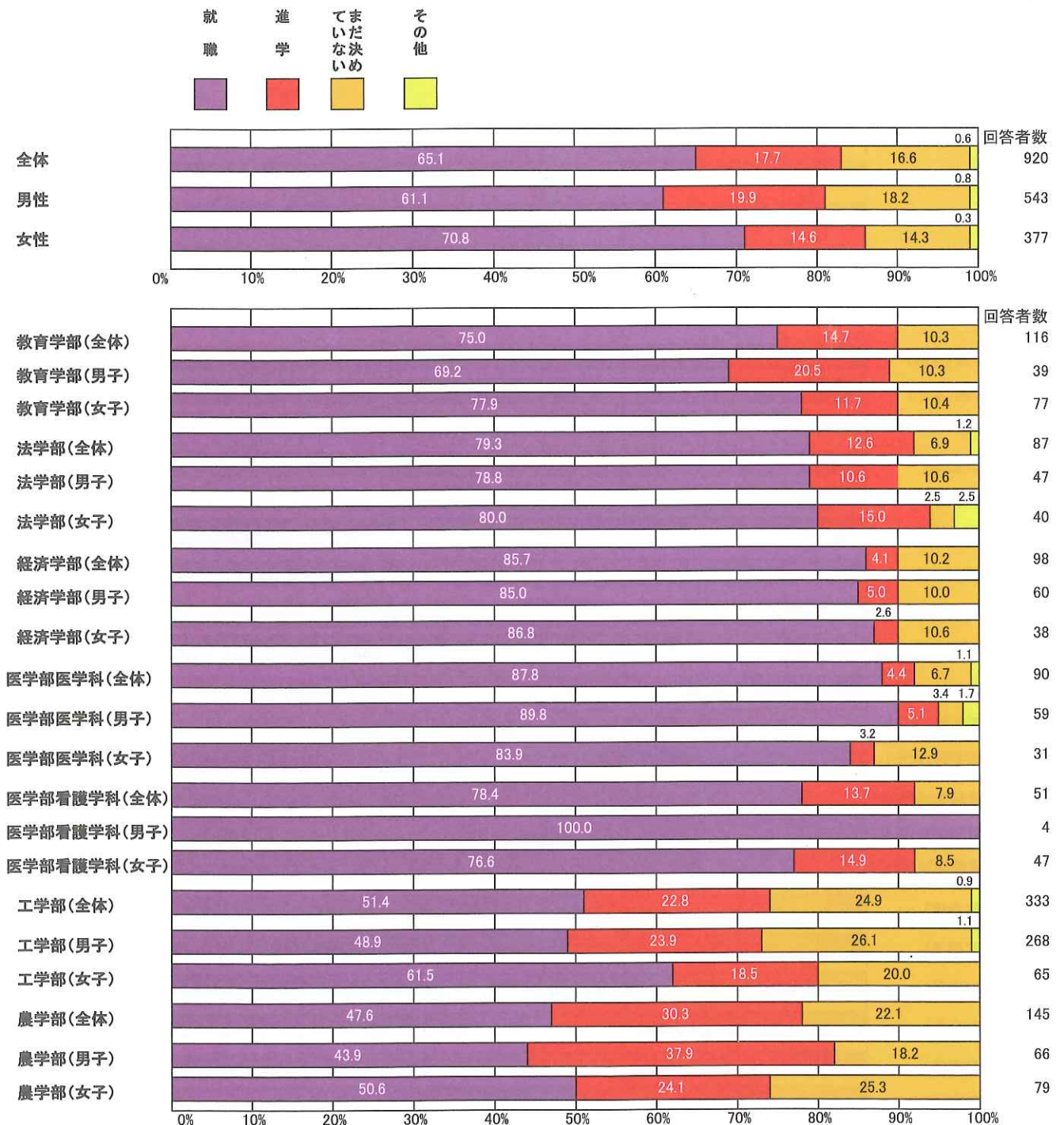
#### (1)卒業後の進路

問33 あなたは卒業後の進路についてどのように考えていますか。

全体として65.1%の学生が卒業後の進路として「就職」を考えていた。これは平成23年度の前回調査結果(66%)とほぼ同じであった。性別で見ると、男性が61.1%、女性が70.8%と、女性の方が「就職」を考えている割合が多い傾向がみられた。「進学」を考えている学生は全体で17.7%と、前回調査結果(17%)とほぼ同じであった。「進路をまだ決めていない」と「その他」の合計は17.3%と、これも前回調査とほぼ同じであった。

学部別に比較してみると、教育、法学、経済、医学の4学部では「就職」が75%以上と、工学部(51.4%)、農学部(47.6%)と比べ、「就職」を考えている学生の割合が高かった。逆に「進学」希望者は、工・農の両学部が20%以上と高かった。教育学部、法学部、医学部看護学科の「進学」希望は10%代と、経済学部(4.1%)や医学部医学科(4.4%)と比べ高かった。「進路未定」と「その他」と答えた学生は、工・農が20%以上と高く、工・農には進路を決めていない学生が多い傾向がみられた。

〔図33〕



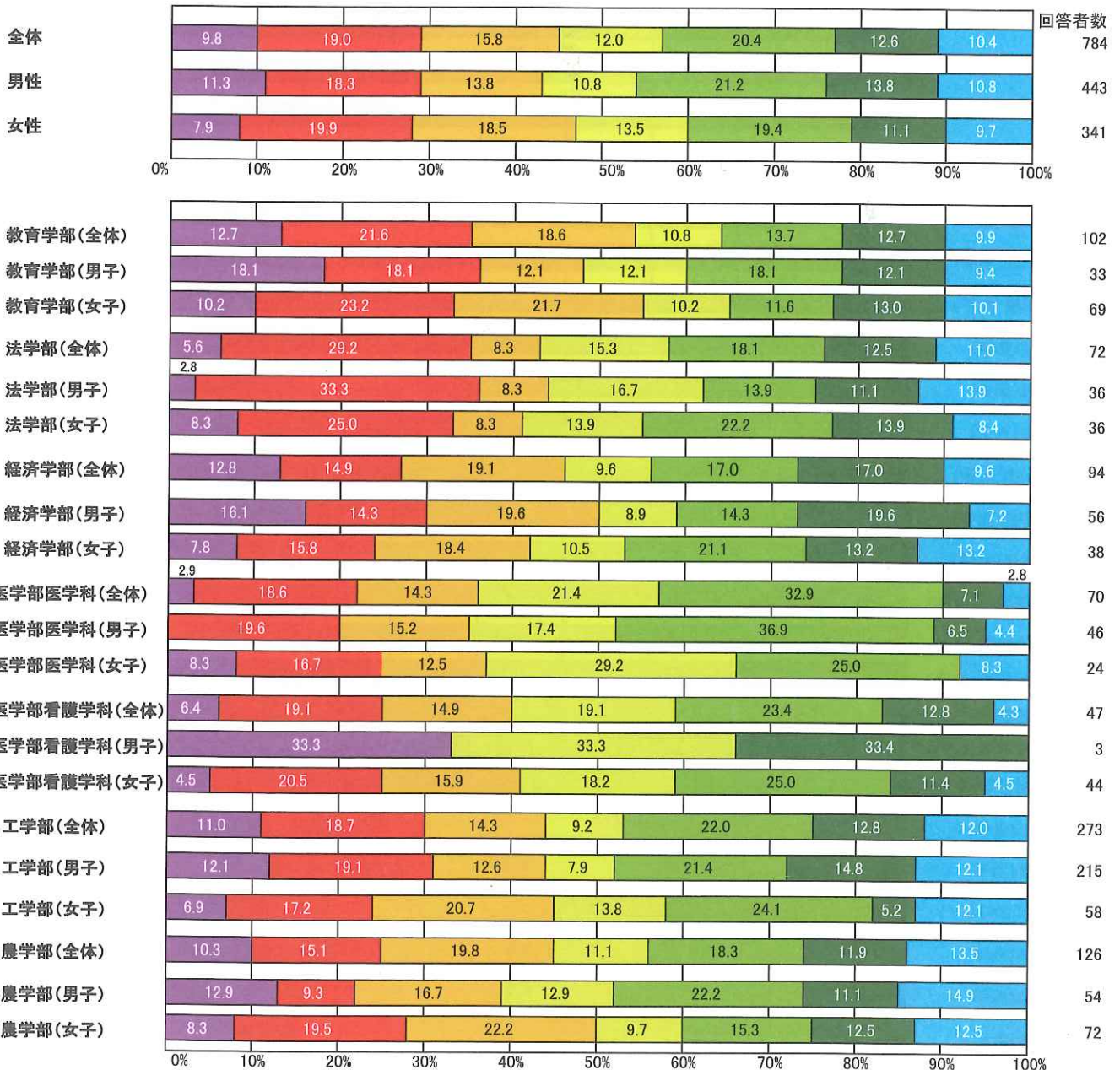
(2) 選ぶ基準

問34 あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか、次のうちから一つ選んで教えてください。

アルバイトを選ぶ基準は、全体では、「給料がよいこと」(20.4%)、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」(19.0%)、「おもしろい仕事や好きな仕事であること」(15.8%)の3つが多かった。性別では、女性のほうが「おもしろい仕事や好きな仕事であること」を基準にアルバイトを選んでいる割合が多かった。

学部別で比較すると、法学部では「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」(29.2%)が多く、経済学部では「楽である(時間的、身体的、精神的)」(17%)が多く、医学部医学科では「給料がよいこと」(32.9%)が多かった。

【図34】





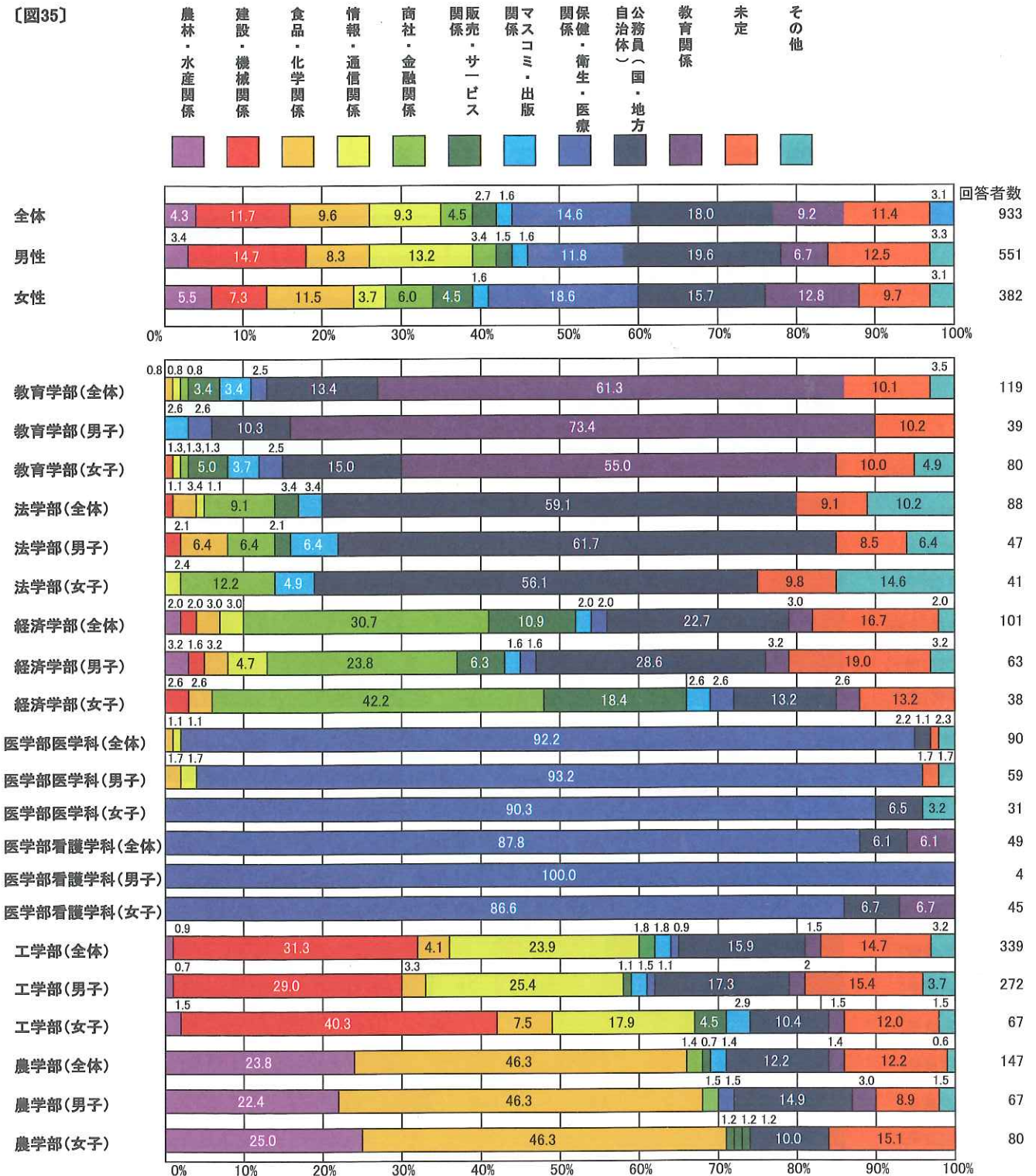
(3) 希望する分野

問35 職業を決めるに当たって希望する分野は何ですか、次のうちから一つ選んで教えてください。

希望する職業分野は、全体では、「公務員(国・地方自治体)」(18%)、「保健・衛生・医療関係」(14.6%)、「建設・機械関係」(11.7%)が多かった。また、「未定」(11.4%)のものも比較的多かった。

学部別では、学部ごとに特色がみられた。教育学部は「教育関係」(61.3%)、法学部は「公務員」(59.1%)、経済学部は「商社・金融関係」(30.7%)と「公務員」(22.7%)、医学部は「保健・衛生・医療関係」(医学科92.2%、看護学科87.8%)、工学部は「建設・機械関係」(30.7%)と「情報・通信関係」(23.9%)、農学部は「食品・化学関係」(46.3%)と「農林・水産関係」(23.8%)が多かった。学部の専門性を活かした職業に就きたいと思っている学生が多いことがわかる。

〔図35〕



(4) 職業選定で重視すること

問36 職業を決めるに当たって重視することは何ですか、次のうちから一つ選んで教えてください。

職業を決めるに当たって重視するのは、全体では、「自己の能力や適性にあっていること」(36.4%)が一番多く、次いで「企業の業種・仕事内容」(20.1%)、「企業の将来性・安定性」(14.1%)、「勤務時間・休暇・福利厚生」(11.8%)が多かった。「地域条件」(7.6%)、「給料」(6.2%)や「企業の知名度」(0.7%)を重視している学生は比較的少なかった。

学部別で見るとかなり異なっていた。教育学部と医学部医学科では「自己の能力や適性にあっていること」がそれぞれ52.7%と52.1%と高かった。これは、教員免許や医師免許といった専門的な資格を反映した結果といえる。経済学部では「自己の能力や適性にあっていること」(20.9%)が他学部と比べ顕著に少なかった。逆に「地域条件」(12.7%)を選ぶ学生が他学部と比べて多かった。医学部看護学科では「勤務時間・休暇・福利厚生」(20.8%)を選んでいる学生が多かった。

〔図36〕

